令和元年度補正・令和二年度補正
ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金

さんべ食品工業株式会社

2種類の飲料水を1本化した新製造ラインを設置 生産能力が大幅にアップし、小ロットにも対応

事業
２種類の飲料水を1つのラインで製造できるライン新設事業

対象類型
ものづくり技術

導入機械装置
簡易リンサー／TW-1500、フレキシブル充填機／TF-12
フレキシブル打栓機／TDP-1、キャップ供給機

経営理念
一、私達は安全で清潔そして健康的な食品を創造します。
一、私達は私達が創造する食品の販売を通じて地域社会に貢献します。
一、私達は地域社会に貢献することによって社員のより良い生活を実現します。

飲料水の製造・販売をメインにこんにゃく、和菓子なども提供

炭酸系やシロップ系飲料水の製造、販売をメイン事業としている、1932（昭和7）年創業のさんべ食品工業株式会社。2020（令和2）年には地元の老舗和菓子店の事業を承継し、その工場を活用して補助事業による飲料水の新たな製造ラインを設置することで一気に増産体制を整えた。OEMによる製造に注力しているが、今後は和菓子も含めて地元食材を生かした自社商品の開発にも積極的に取り組むことにしている。

3代目となる勝部邦彦代表取締役社長の祖父・忠五郎氏が三瓶山麓の豊富な地下水を生かして三瓶鉱泉合名会社を設立し、サイダーやジュースの製造・販売を始めたのがスタート。戦後間もなく、勝部邦彦代表取締役社長の父・禮造氏が2代目を継ぎ、社名をさんべ食品工業株式会社にするとともに、夏場の作業が中心の飲料水だけではなく、こんにゃくの生産を始め、年間を通じた生産体制を敷いた。2003（平成15）年には、勝部邦彦代表取締役社長が3代目を継ぎ、新たにジャムの製造に挑戦した。

洗瓶、充填、打栓・キャップ供給を1ラインで完結 従来の3倍以上の製造が可能になり、生産量アップ

ところが、コロナ禍の影響で販売が落ち込み、立て直しのために邦彦代表取締役社長の長男で医療系職員だった現専務取締役の総一郎氏が2019（令和元）年に帰郷。若い経営感覚で事業の見直しを図った。たまたま、1789（寛政元）年創業の老舗和菓子店を2020（令和2）年に事業承継することになり、OEMの需要も増えていたことから、補助事業を活用して別々のラインだった炭酸系、シロップ系の2種類の飲料水を１本化し、さらにリンサー（洗瓶）、充填、打栓、キャップ供給を一つの流れで完結させる新製造ラインを製造工場内に導入することにした。


代表取締役社長　勝部　邦彦




①生産性が大幅にアップした、1本化された製造ライン
②洗瓶の前日処理の必要がなくなったリンサー
③OEMのサイダー

従来は、洗瓶は別工程で前日作業をしておく必要があり、ラインも炭酸系とシロップ系が別々で、シロップ系のキャップ取り付けは手動で行っていた。新ラインは、洗瓶から充填、打栓、キャップ供給までを一つのラインで行えることから、生産本数が飛躍的に向上し、リードタイムも大幅に短縮された。炭酸系の場合、1日当たりの生産量が600本だったものが3000本以上可能となり、シロップ系は300本だったものが1000本以上可能になった。時間に余裕が生まれ、OEMの試作品開発や、別の補助事業で導入した原価把握の手順を策定するノーコードツールによる原価の見える化にも努めている。

小ロットのOEMに注力 オリジナル商品の充実も模索

現在、OEMの依頼は、県外業者が多いが、今後は地元業者の果実、野菜などを使った小ロットOEM商品の受注増に努め、県内農産品の消費拡大に寄与したい考え。一方で、商標登録しているスイートママのユズやウメのサイダーなどに加え、新たなオリジナル商品の開発にも力を入れる。また、和菓子の開発は総一郎専務取締役の妻・麻衣氏が担う。今年は、サツマイモの栽培を奨励し「芋代官」と呼ばれた井戸平左衛門の功績をたたえ、芋の形をした和菓子「平左衛門」を新発売した。総一郎専務取締役は「受注に波のあるOEM依存では、経営が不安定。安定経営に向けじっくり戦略を練り、製造ラインの稼働率をさらにアップさせるなど自社製品を安定的に供給し、世界遺産の町の土産品を増やす面からも貢献したい」とさらなる飛躍に夢を描く。

Company Data

さんべ食品工業株式会社


外観

代表者名	勝部　邦彦
設立年	1932（昭和7）年
資本金	19,550千円
従業員数	15名
主たる業種	食料品製造業
本社 長久工場	〒694-0064 大田市大田町大田イ403番地5 〒694-0041 大田市長久町長久イ531
電話	0854-82-0863
FAX	0854-82-6686
URL	http://www.sanbe-sweet.com/